

○企業子宝率の計算例(イメージ)

<計算方法>

各年齢区分の期間に**15～59歳**の従業員(男女問わない)が子どもを生んだ割合を計算し、合計

従業員数16名(男性9名、女性7名)の場合

<調査票>

年齢区分	従業員の年齢	従業員の性別	子どもの数	第1子年齢	第2子年齢	第3子年齢
15～19歳	19	男	0			
20～24歳	23	男	0			
25～29歳	25	女	0			
	28	女	1	1		
30～34歳	31	女	0			
	32	男	0			
	32	女	0			
35～39歳	34	男	1	5		
	35	女	1	0		
40～44歳	40	女	2	16	0	
	40	男	1	8		
	43	女	3	20	16	14
	44	男	1	2		
45～49歳	48	男	1	17		
50～54歳	51	男	2	21	19	
55～59歳	59	男	3	28	23	20
計			16			



各年齢区分の期間に子どもを生んだ割合を合計

年齢区分	各年齢区分の該当者及びそれより年長の従業員数(①)	各年齢区分の期間に子どもをもった従業員数(②)	各年齢区分の期間に子どもを生んだ割合(②/①)
15～19歳	16	0	0.00
20～24歳	15	2	0.13
25～29歳	14	4	0.29
30～34歳	12	5	0.42
35～39歳	8	3	0.37
40～44歳	7	2	0.29
45～49歳	3	0	0.00
50～54歳	2	0	0.00
55～59歳	1	0	0.00
合計			1.50

↓ 補正※

企業子宝率 1.57

※過去の「合計特殊出生率」が高かった時代に生まれた子どもが多い企業は、子どもを生んだ割合が高く出る傾向があるため、従業員の出産年齢を考慮した補正を行う

<参考:合計特殊出生率>

合計特殊出生率は「15～49歳までの女性の年齢別出生率を合計したもの」で、一人の女性とその年齢別出生率で一生の間に生むとしたときの子どもの数に相当する。